

## 8-4-39 品質向上専門委員会

### 1. 主な活動の記録

#### (1) 活動の目的

品質の確保・向上について、管理技術面からアプローチしたエラー防止策や業務成果の品質向上策を提案することを目的とした。専門技術面のエラー防止については、技術部会の各専門委員会資料を活用することで、より効果的な活動となることを目指している。

#### (2) 委員会の開催

- ・専門委員会の開催：11回

#### (3) マネジメントセミナーへの参加

- ・開催時期：令和元年7月
- ・開催地：当協会9支部の9会場
- ・主催：MS委員会/品質委員会 共催
- ・セミナー参加者：全会場で1,390名（その内49名は発注者）

当委員会のプログラムは、第5講「品質の確保・向上に向けて」“次のアクションはこれだ”とし、60分の講演を行った。

#### (4) セミナー第5項の評価(アンケート結果より)

セミナー参加者へのアンケートでは、発表内容は「非常に役に立つ」と「役に立つ」の合計が98%（昨年度96%）、講師の説明は「非常に分かり易い」と「分かり易い」の合計が94%（昨年度94%）と、昨年に引き続き高い評価となっている。この評価は、ヒアリングで得た具体の事例に重点を置いた内容と、事前のプレゼン準備に時間を割いた結果と考える。

自由意見では、下記の①、②や実務に直結する身近な事例がわかり易いという意見が多くあった一方、文章が多くイメージしにくいため図表を多く活用したビジュアルによる紹介を望む意見もあった。

①秋の「品質セミナー」とは異なる視点（事例の活用法、エラー防止方法）であり、品質セミナー事例の講習と合わせて必要な講習である。

②中小企業主体の品質確保の取り組みなどの具体的事例をもっと知りたい。

#### (5) 品質講習会の開催

協会会員向けに以下の講習会を開催した。

- ・開催日：令和2年2月27日(木)
- ・場所：協会本部7階会議室
- ・講師：角有司氏  
(JAXA 主任研究開発員)
- ・テーマ：宇宙機開発の高信頼化に向けた取り組みと建設分野への展開

講演では、宇宙機のような大規模システムの設計は、扱う情報量が多く専門家の分業にならざるを得ないこと、上流設計の強化「フロントローディング」や手戻りの減少「ロバスト化」が必要なこと、シミュレーションを網羅的に活用するロバスト設計手法などが紹介された。

分業化では「設計のタコツボ化」が進むことが課題であり、この防止には「設計者の思い込みの排除」や「情報のオープン化」が重要であるとの指摘は、建設コンサルタント業界も同様であることを改めて認識した。

#### (6) 品質向上施策の検証と新たな施策の検討

令和元年9～10月に、合同現地踏査や条件明示チェックシートなど、品質向上に向けた様々な施策について、その運用実態や効果を検証し、有効性や課題を整理し、改善策を検討した。この成果は「未来塾」の資料に反映されている。

### 2. 次年度の活動

令和2年度は、会員企業の若手技術者の育成や技術の継承を中心に、日々の業務執行での工夫や悩みなどをアンケートとヒアリングで調査し、品質向上との関連性を分析、とりまとめを行い、令和2年度品質セミナー（10～11月開催予定）での発表を予定している。資料は協会HPでも紹介し、協会の「品質ブランド」の確立を目指す。

また、次年度も会員企業の取り組みについて継続的な調査を予定しており、さらに品質向上推進ガイドライン（H23）のリニューアルや品質向上に関する講習会の実施を検討する。

(品質向上専門委員会委員長 上田 隆)